

まちの魅力
再発見

あみっぺ
が行く

子ども防災 フェスティバル

6月28日(日)
実穀ふれあいセンター

ーあみっぺー
が主役！

今回は「子ども防災フェスティバル」に
行ってきたよ。
さまざまな体験を通して、
防災について楽しく学べるイベントで、
たくさんの子どもの笑顔と発見があふれる、楽しい1日になったよ。
防災を意識し、もしものときに備えておこうね。

防災関連展示

茨大東北ボランティアサークル fluer による防災ワークショップや、霞ヶ浦高等学校による防災かるた、東京理科大学高橋研究室による「たいしん補強金魚すくい」が行われました。また、阿見消防署による消防車展示や、防災関連企業による防災用品の展示も行い、多くの来場者でにぎわいました。子どもから大人まで楽しみながら防災について学び、日頃の備えの大切さを考える機会となりました。



霞ヶ浦高等学校の皆さんにお話 しを伺いました

災害の危険性と防災の大切さを伝え、いつ起こるか
わからない災害に備えてほしいとの思いで活動
しました。子どもにも親しみのある身近な「かる
た」を通して、子どもたちは楽しみながら防災の
知識を学び、
理解を深めて
くれて、伝え
る側としても
大きなやりが
いを感じまし
た。



防災に関する講演会

東京理科大学高橋教授による防災講話を開催しました。講話では、防災を楽しく学ぶために考案された地震モチーフとしたキャラクター「阿見チュード」を用いながら、災害への備えや耐震の重要性について分かりやすく解説しました。また、非常持ち出し袋に備えておきたいものや家庭でできる備えについても紹介し、参加者の防災への理解を深める貴重な機会となりました。



防災
キャラクターも
登場！

エアベッド&災害用テント体験

阿見町防災アドバイザーのみなさんによるエアベッド&災害用テント体験では、避難生活を想定し、エアベッドの設置方法や寝心地、災害用テントの組み立てを体験しました。実際に組み立てたお子さんは「エアベッドやテントの組み立ては思ったより簡単で、楽しく体験できました。実際にエアベッドで寝たら、ふかふかで気持ちよかったです。実際に災害が起きたときには、落ち着いて組み立てができそうです。」と話し、体験を通して防災への理解を深めるとともに、いざという時への備えもできた様子でした。



いざという時に
役に立つ体験

胸骨圧迫およびAED体験

阿見消防署の協力をいただき、心肺蘇生の基本となる胸骨圧迫の方法や、AEDの使い方について、体験しながら学びました。署員の方の丁寧なご指導に、参加した子どもたちは一つひとつの手順を確認しながら真剣な表情で実践し、いざという時に命を守る大切な知識と技術を身につけることができました。



ぼくも
やってみよう！

炊き出し

災害時に活用されるアルファ化米の食べ比べや、温かい豚汁の炊き出しが行われました。

炊き出しに協力してくれたくみちゃん「去年、実際に避難所で食事の支援を行った経験もあります。『誰かが動かし』のではなく、『誰もが動く』ことが大事。」と話してくれました。災害時には避難所が分散されるからこそ、誰でも炊き出しができるよう経験しておく、いざというときに役立ちます。また、アルファ化米などの防災食の味に慣れておくことも必要です。



花火体験

一日の体験を振り返りながら、家族や友だちと花火を楽しみ、色とりどりの光と参加者の笑顔が会場に広がりました。防災の大切さが胸に刻まれるとともに、かけがえのない思い出となりました。



子ども防災フェスティバルを主催したami seedの清水さんにインタビュー



近年の災害増加や町内での火災経験をきっかけに、子どもたちに防災意識を育む必要性を感じ、命を守る行動や地域での支え合いを学ぶことを目的に「子ども防災フェスティバル」を開催しました。300人を超えるご来場をいただき大盛況となったのは、ご協力いただいた企業や学生、多方面で支えてくださった皆さまのおかげです。今後も地域力の向上と次世代の担い手育成に取り組んでまいります。

次は11月11日通常版で
お楽しみに！

